

ならしめる傾向がある。これは流送力による淘汰の結果であるは勿論だが、恐らく上流崩壊地よりの流出土砂は一部中流の洗掘流出の土砂と漸次交代又は混合して堆積したものと認められる。

これが対策については別論に譲るべきだが、この堆積土砂の現象に鑑みその給源崩壊地について流出防止安定の策を講ずべきである。

(昭和29年5月)

### 笹の枯殺試験について

佐賀県庁林務課 加藤橋蔵

笹の枯殺試験については長崎市に於ける第7回研究発表会にて報告したが、その後の成績につき28年5月10日調査した処別表の通りであるが、27年11月調査では1坪当り塩素酸加里粉末剤100g即ち4合以上撒布しなければ充分枯死するに至らない。

然しこれは地上の枯死率であつて、地下茎の枯死は筍発生如何によるものである関係上調査した結果を取まとめ、結論として発表することにした。

1. 各施行地共、27年調査した時より生存数が減少しているのはその後薬剤の効果があつたものと思ふ。

思う。

2. 各施行地の周辺に筍発生が多い、之は地域外の根数より生じたものである。周辺は深さ2尺、巾1尺位の溝を掘つて置くことが必要であつた。

3. 地上の部分の枯死している笹は全部地下茎まで黒褐色を呈して枯死しているのを認めた。

以上の調査により、塩素酸加里粉末剤100g以上撒布すれば笹は略枯殺することが出来る。

施用経費は1反当り2,430円となつたが、安価に出来る方法を研究しなければならないと思う。

笹の枯殺試験調査表(28.5.10)

施行地	実施面積	坪当り撒布量	当初坪当り生立本数	27年度生存数	27年度枯死率	28年度生存数	28年度枯死率	筍発生本数	筍発生率	備考
1号	10坪	44g	1,224	456	63%	340	72%	528	43.1%	筍発生極めて多し
2号	10	66	1,110	300	73	91	91.8	358	32.3	筍発生周辺部に多し
3号	10	90	900	32	96	27	97.0	56	6.2	〃
4号	10	110	1,292	28	98	19	98.5	49	3.8	〃
5号	10	200	1,216	0	100	0	100	26	2.1	
6号	10	400	1,188	0	100	0	100	0	0	
雑草区	5	90	1,090	?	?	?	?	?	?	枯死せず
メダケ区	5	90	75	不明	?	?	?	?	?	〃

### 「すぎざいのたまばえ」(仮称)について

林試熊本支場 小田久五・岩崎厚

本害虫は昨28年、加久藤営林署白鳥経営区で発見され、タバコ科の昆虫なるも、学名は未定である。

分布及び被害は霧島山周辺海拔500米以上の杉林に認められるが、今後の調査により、各地で発見されるものと思う。

#### ○成虫

雌は体長2.5~4mm、雄は1.5~2.5mm、雌雄ともに腹部は鮮紅色を呈しているが、体全体に灰黒色の翅

毛が密生している。

#### ○幼虫

老熟幼虫は体長3.0~4.5mmで鮮紅色を呈し、Y字形の胸骨を有し、尾端に4個の小なる突起を有する。

#### ○蛹

体長3.0~4.0mm、腹部は鮮紅色を呈す。

#### ○卵

長さ0.3~0.4mmで長楕円形で、淡紅色。

成虫の発生は5月上中旬～6月上旬、最盛期は5月中下旬、産卵は粗皮の間に行われる。被害は幼虫による樹皮の喰害により起り、このため樹皮はもろく、脱落し易く、杉皮の利用は出来なくなり、雨水等の浸透により木質部に斑点が出来る。

越冬は老熟幼虫のまま、樹皮の中で行われ、3月頃から喰害部に薄い繭を作り、4月中旬～5月下旬にその中で蛹化し、5月上中旬～6月上旬にかけて蛹態の

まま、樹皮の表面に出て、蛹体を半ば抽出して羽化する。成虫の産卵活動は昼間で、生存期間は数日間である。喰害部で多数の病原菌で斃死せる幼虫体を認める他、幼虫体に寄生する或る種の寄生蜂が存している。

本害虫の形態分類学上の研究は林試北海道支場井上博士が担当し、熊本支場に於ては生態及び被害の詳細につき目下調査中である。

### 大分県東国東郡地方の防風林の構成と効果一例

大分県林政課 及 川 安 壽  
東国東地方事務所 長 野 愛 人

#### 1. ま え が き

大分県東国東郡地方の海岸を蜿蜒と圍繞する森林は今より300余年前、時の藩主松平侯の奨励によつて作られる様になつたのである。勿論現在の海岸林は松平侯一代で作られたものでなく、その後の為政者の植林の奨励、地元民の絶えざる補植等によつて今日の美林をなしているのである。

#### 2. 防風林の規模と構成

東国東地方の海岸線は約70軒あるが、その中森林で

蔽われている所は約50軒ある。この内耕地防風林としてその機能を果していると思われるものは約45軒で、この内で特に稲作に関係のあるのは35軒内外と推定される。

延長約50軒に及ぶこの海岸林は樹高、林相等より大別して良、中、不良の3階級に分けられる。良というのは樹高の最高26米内外、防風林の幅は25米内外、樹種はクロマツが主で下木としてトベラ、ナラ、タブ、アキグミ等の広葉樹が混入している所で、その延長は

樹種別樹高級別本数表(良の部)(長10米、幅25米)

樹高級 (m)	樹種					計	備 考
	くろまつ	とべら	な ら	た ぶ	あきぐみ		
1.3～5	—	2	1	—	1	4	1. 良の防風林は針葉樹と広葉樹が程よく混交し且樹高級を占め理想的防風林の構造をして居る。
5～10	2	3	—	1	—	6	
10～15	3	—	—	—	—	3	
15～20	3	—	—	—	—	3	
20～25	8	—	—	—	—	8	
25～30	5	—	—	—	—	5	
計	21	5	1	1	1	29	

樹種別樹高級別本数(中の部)(長10米、幅19米)

樹高級 (m)	樹種			計	備 考
	くろまつ	とべら	あきぐみ		
1.3～5	1	1	1	3	1. 中の部は良の部に比し樹高が低く、幅が狭く、混交本数が少ないが各樹高級を占めて居るので稍良好な防風林の構造をして居る。
5～10	2	1	—	3	
10～15	2	—	—	2	
15～20	1	—	—	1	
20～25	7	—	—	7	
計	13	2	1	16	